（小学校）

第１学年〇組　道徳学習指導案

平成〇年〇月〇日（〇）　第〇校時
在籍児童数　　〇　名
指導者　　教諭　〇　〇　〇　〇

１　主題名　すなおにあやまるこころ　　１－（４）

２　資料名「きいろい　くれよん」　　出典（「みんなのどうとく１年」学研）

３　主題設定の理由

（１）ねらいとする道徳的価値について

内容項目１－（４）は、「うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する」ことをねらいとしている。低学年においては、特にしかられたり笑われたりすることから逃れるために、うそをついたりごまかしたりして暗い心になることが少なくない。そこで、人の失敗を責めたり笑ったりしない学級にするとともに、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を育てることが必要である。

幼稚園教育では、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で明るく伸び伸びと行動し、自己の存在感や充実感を味わうことを基盤として健康な心の発達を促している。そうした生活経験を積んできた子どもたちであり、さらに中学年になると「正直に明るい心で元気よく生活する」に受け継がれ、高学年の「誠実に明るい心で楽しく生活する」へと発展していく。

積極的で健康的な明るい自分を育てていくには、自分自身に対する誠実さや明るく楽しい生活を心掛ける姿勢をもつことが大切である。そこで、学校生活にも慣れてきたこの期の生活を通して、うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活することの大切さを学ばせたい。

（２）児童の実態について

１年生の児童は、小学校生活に慣れてくるに従い交友関係も広がっていく。友だちとのかかわりの中で迷惑をかけた時には「ごめんね」という言葉が素直に出たり、相手の優しい好意に対しては「ありがとう」などの言葉で素直に自分の気持ちを表現している場面を多く見ることができる。しかし、自分本位で行動することもまだまだ多く、悪意がなくてもうそをついたり、ごまかしたりすることがある。そして、「しかられたくない」「自分をよく見せたい」といった自分自身をかばいたいという気持ちから、「ぼくのせいじゃない」「ぼくだけじゃない」などの言い訳も聞かれる。そこで、うそをついたりごまかしたりした後の後ろめたい気持ちに気付かせ、素直に過ちを認め正直で誠実な行動をとろうとする態度を育てたい。

（３）資料の活用について

本資料は、黄色いクレヨンをなくしてしまった主人公が、隣の子の机上のクレヨンを自分の物だと言い張るところから話が始まる。その後、自分のクレヨンが見つかるが素直に謝れずに、そっと机上に戻しておく。けれどもその日、好きな絵を描いても楽しくなかったという話である。資料の内容は、児童にとってよくありがちな身近な場面を取り上げたものであり、自分の間違いを自分なりに受け止めながらも素直に謝れずにうそをついたために心が晴れない主人公の姿を通して、素直に正直に行動することの大切さを感じ取らせることができる資料である。

指導の視点として、「のぶくん」を主人公とし、次の４つの場面を中心に話合いを深めていきたい。

①のぶくんが、隣のみかちゃんの机の上の黄色いクレヨンを自分のだと言い張っている場面
②のぶくんが、かばんの中から自分の黄色いクレヨンを見つけ考え込む場面
③みかちゃんの机の上にそっとクレヨンを置いたのぶくんが、「知らないよ」と答える場面
④好きな絵を描いても楽しめない場面

①では、みかちゃんの机の上の黄色いクレヨンを自分のものと決め付けている主人公の身勝手さを共

感的に理解させる。②では、自分のクレヨンを見つけ２本になってしまった黄色いクレヨンを前にして、どうしたらよいか悩む主人公の誠実な心の動きにも気付かせていきたい。③では、自分の過ちに気付きながらも素直に謝れず、ごまかそうとする主人公の心の弱さを共感的に扱う。また、相手を気遣うみかちゃんの優しい心にも触れ、明るく楽しく生活していくことの大切さに気付かせるよう工夫したい。④では、素直に謝らずにうそをついたために後ろめたい気持ちになったことを捉え、正直に行動することの大切さを十分感じ取らせる。

4　ねらい

うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと明るく生活しようとする心情を養う。

5　事前指導

・うそをついたりごまかしたりしてしまった経験や、自分の過ちを正直に話して素直に謝れた経験についての意識調査を行い、実態を把握する。

6　本時の展開

段階	学習活動　◎主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点　☆評価の観点
導入	1　意識調査の結果を見て話し合う。 ◎正直に話したり、素直に謝れてよかったと思った人の話を聞いてみましょう。	・正直に言って謝った時、誉められて嬉しかった。 ・言うまでは迷ったけど正直に謝れた時は安心した。	・正直に謝れてよかった経験を聞かせることで、話し合いへの意欲をもたせたい。 ☆自分の体験と重ねながら聞くことができたか。 （発言・つぶやき・表情）
展	2　資料の登場人物、条件・情況について知る。 ・図工の時間に、のぶくんの黄色いクレヨンがなくなった。 ・隣りのみかちゃんの机の上に、よく似た黄色いクレヨンがあった。		・切り抜き絵を使い、登場人物を押さえる。
	3　資料の範読を聞き、話題の整理と確認をする。	・主人公の気持ちを考えながら聞き、心に残ったことを発表する。	・主人公の気持ちや行動をとらえやすいように補説を加えながら範読をする。 ☆興味をもって話を聞くことができたか。　（表情・学級の雰囲気） ・児童の心に残ったところを中心に話題を整理する。
	4　話題をもとに話し合う。 ①みかちゃんの机の上にあった黄色いクレヨンを箱にしまうのぶくんの気持ちを考える。 ◎みかちゃんに「それ私のよ」と言われたにもかかわらずのぶくんがクレヨンを自分の箱にしまったのは、どんなことを思ったからでしょう。	・これは絶対ぼくのクレヨンだ。まちがいない。 ・みかちゃんが間違えているんだ。 ・ぼくのクレヨンがみかちゃんの机の上に行ったんだ。	・みかちゃんの机の上の黄色いクレヨンを自分のものと決め付けて、箱にしまい込む主人公の身勝手さを共感的に捉えさせる。 ☆みかちゃんの言葉には耳を貸さずに、自分のクレヨンだと言い張るのぶくんの心の内を知ることができたか。　（発言・表情）

開	②次の日、かばんの中から自分のクレヨンを見つけたのぶくんの気持ちを考える。 ◎次の日、自分のクレヨンを見つけ２本になってしまった黄色いクレヨンを前にして、のぶくんはどんなことを考えているでしょう。	・やっぱり昨日のクレヨンはみかちゃんのだったんだ。 ・ぼくが間違っていた。どうしよう。 ・みかちゃんに何て言ったらいいんだろう。悪いことをしたな。 ・あんなに強く言わなければよかったな。	・２本になってしまった黄色いクレヨンを前にして自分の間違いに気付き、どうしたらよいか悩む主人公の心の内を探らせる。 ☆自分の間違いに気付き、どうしたらよいか考え込むのぶくんの心の内を捉えることができたか。 （発言・表情）
	③みかちゃんの机の上にそっとクレヨンを置いたのぶくんの気持ちを考える。 ◎のぶくんが、みかちゃんの机の上にそっとクレヨンを置き、更にたずねられると「知らないよ」と言ったのは、どんな気持ちからでしょう。	・みかちゃんの机の上にそっと返しておけばわからないだろう。 ・ぼくが間違えたんだから謝った方がいいかな。でもみかちゃん、怒るだろうな。 ・ぼくがクレヨンを間違えたとみかちゃんにわかってしまったらどうしよう。 ・みかちゃんに怒られるのは嫌だ。このまま知らないふりをしてしまおう。	・自分の過ちに気付きながらも素直に謝れず、ごまかそうとする主人公の心の弱さを共感的に扱う。 ・書く活動を取り入れ、自分の過ちを認めながらもどうしても素直に謝ることができずなんとかごまかそうとしてしまう主人公の心の内を、一人一人に深く考えさせる。 ☆自分の過ちに気付きながらも素直に謝れず、ごまかそうとするのぶくんに共感することができたか。 （発言・表現）
	④好きな絵を描いても楽しめないのぶくんの気持ちを考える。 ◎好きな絵を描いているのにのぶくんが楽しくなかったのはどうしてでしょう。	・みかちゃんにうそをついているから。 ・自分がいけないことをしたとわかっているのに、素直に謝らないから。 ・正直に話さないで、知らないふりをしたままだから。 ・うそをついていることが気になってしかたがない。	・自分の間違えに気付きながらも謝らずに嘘をついてしまい、素直になれない自分の心に後ろめたさを感じ始めている主人公の心を捉えさせる。 ☆素直に謝り正直に行動することの大切さを十分感じることができたか。（発言・表情）
	５　これからの自分について考える。 ・今日の学習で心に残ったことを話し合う。	・いけないことをしてしまったら、謝ろう。 ・謝らないと楽しくないけど、謝れば楽しい気持ちになれる。	・主人公の心の動きを振り返ることで、素直に謝ることの大切さを印象付ける。 ☆過ちを犯してしまっても、うそをついたりごまかしたりしないで素直に謝ることによって、明るく生活できることを感じ取ることができたか。（発言・表情）
終末	６　教師の説話を聞く。	・素直に謝ることって大切だね。 ・私もそういう人になりたいな。	・うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活することの大切さを話し、実践への意欲を育てる。 ☆ねらいとする道徳的価値を印象深くとらえることができたか。 （表情・態度）

7　本時の評価の観点

〇児童サイドの観点

・主人公の気持ちになって、その時の気持ちを考えることができたか。

・好きな絵を描いても楽しめない主人公の心の内を考えることで、うそをついたりごまかしたりしないで素直に謝ることの大切さに気付くことができたか。

・友だちの話を聞き、自分の思いや考えを発表しようとしていたか。

〇教師サイドの観点

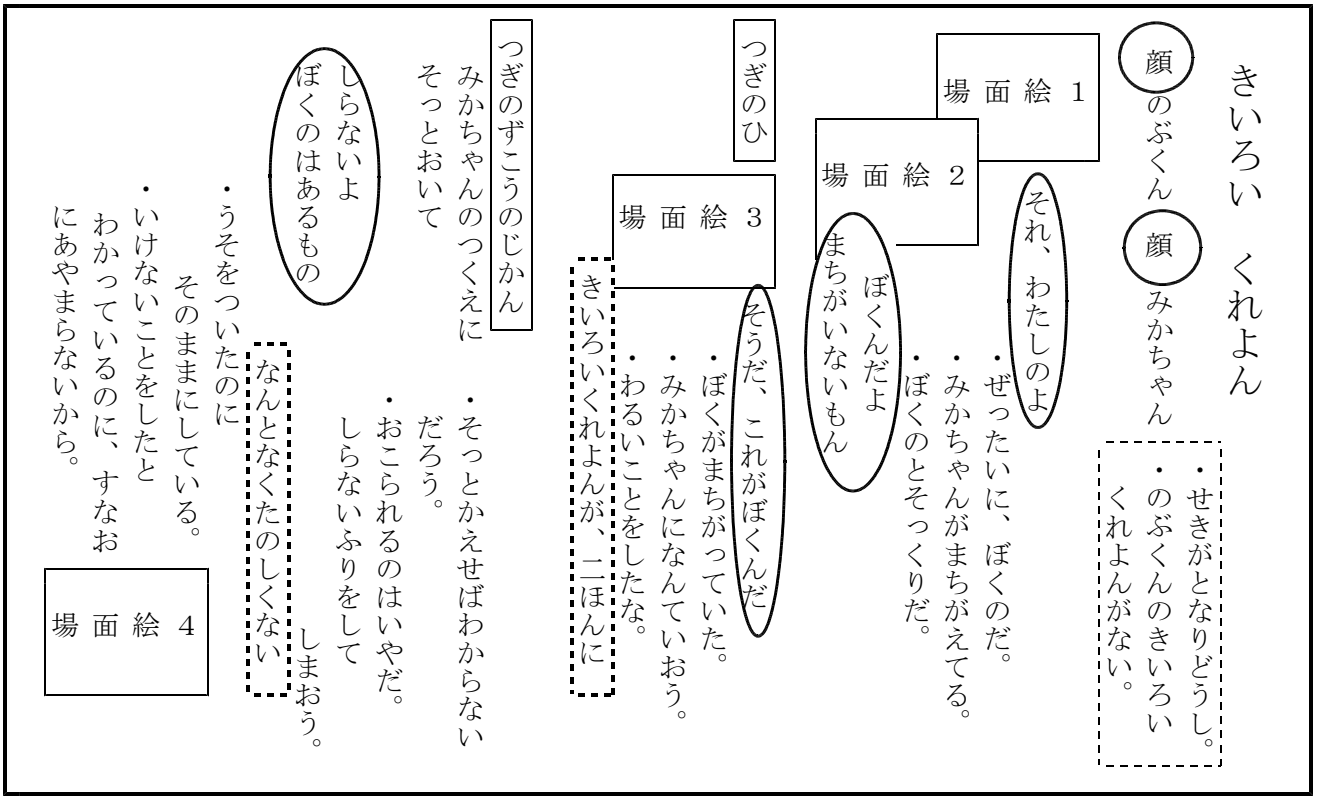
・素直に謝れない主人公の心の内を考える場面で、書く活動を取り入れたことは効果的であったか。

・ねらいとする道徳的価値に迫るために発問は適切であったか。

・児童の発言やつぶやきをよく聞き、他の児童に広め、話合いに生かすことができたか。

8　事後指導

・『こころのノート』Ｐ２９「あかるい気もちで」の風船に色を塗る作業を、毎日の振り返りとして活用する。

・朝の会や帰りの会を活用して、誠実に関連するイソップ物語や昔話を読み聞かせ、正直に行動しようとする心を育てていく。

9　板書計画